

つがる市に生まれ、育ち、 生業に励み、その人生が よかったと思えるまちに



つがる市長
倉光弘昭

新年おめでとうございます。
市民の皆さま方には、清々しい新春を健やかにお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年3月、市民の皆さまの力強いご支援により、第2代つがる市長に就任し、市政の舵取りを担い、その責任の重

大さに身の引き締まる思いです。初心を貫き、市民の幸福で安定した生活を第一に考え、全力で職務を遂行してまいります。

■新型コロナウイルス対策

一昨年来、地域経済・市民生活に甚大な影響を及ぼしている新型コロナウイルス。本市

としては、3回目の新型コロナウイルスワクチンの接種を円滑に進めるとともに、引き続き感染症対策に万全を期し、市民の皆さまの生命と健康を最優先に考えて取り組んでまいります。併せて地域経済の回復・活性化を図り、一日も早く平穏な日常を取り戻したいと考えております。

■人口減少・少子高齢化対策

本年度は、結婚を機に始める新生活を支援する『結婚生活スタートアップ事業』（関連12ページ）を新たに実施。今後、結婚から出産、子育てまでライフステージに応じて切れ目なく支援し、安心して子どもを産み育てられ、子ども達が健やかに成長できるように一層取り組みを推進してまいります。

本市の認知度や好感度を上げ、交流人口および移住・定住人口の拡大と地域経済の活性化に向けた取り組みが急務となっております。東京事務所では、神楽坂の小学校と連携しプランターメロン栽培や給食でメロンを提供するなど、食育に取り組んでいるほか、毘沙門天善國寺境内でPRイベントも開催。積極的にシティプロモーションを展開し、関係人口の創出・拡大に取り組んでおります。「果房メロンとロマン」は、コロナ禍でも数々のテ

レビ番組や刊行誌で取り上げられ、神楽坂の顔としてイメージも定着しつつあります。

■魅力ある農業の推進

昨年、新型コロナウイルスの感染拡大で、外食需要は落ち込み米価が下落。『生産者概算金』は、生産費を大幅に下回り、営農意欲の減退、離農や耕作放棄地の増大などが危惧されました。本市では他の自治体に先駆けて農家支援策を打ち出し、営農意欲を失うことなく、経営が維持できるよう、早急に支援しました。

基幹産業である農業を持続的に発展させていくためには、儲かる農業を実現していくことが重要です。産地の競争力を強化していくために、スマート農業機械導入に対する補助やGNSS（衛星測位システム）基地局設置など、高収益作物等の生産拡大、農作業の効率化などの取り組みも推進してまいります。メロンの水耕栽培実証試験では、厳しい冬を乗り越えて育ったメロンの出来も良く、栽培技術確立に一步前進しました。継続して通年栽培実現に取り組んでまいります。

■縄文遺跡の活用

昨年7月、本市の亀ヶ岡石器時代遺跡と田小屋野貝塚を含む『北海道・北東北の縄文遺跡群』が世界文化遺産に登録

録。つがる市の宝が世界の宝となりました。今後は、史跡の公有地化事業、現地整備等に継続的に取り組み、国内外から訪れる来訪者の受け入れ態勢の充実に努めてまいります。

■市総合体育館の建設

災害に備えた防災機能を有し、市民の幅広いスポーツ活動の拠点となる（仮称）つがる市総合体育館は、工事も順調に進み、建物の外観も見て分かるようになりました。令和5年1月の完成を目指します。

■ゼロカーボンシティ宣言

地球温暖化が原因とされる気候変動により自然災害が頻繁化・激甚化。世界的に脱炭素社会に向けた取り組みが求められています。本市では、2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を昨年9月に宣言。今後は、市民の皆さまとともに脱炭素社会の実現を目指して取り組んでまいります。

今後とも、つがる市に生まれ、育ち、生業に励み、その人生がよかったと誰もが思えるまちづくりの実現に向け全力で取り組んでまいりますので、一層のご支援とご協力をお願いするとともに、皆さま方のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。いさつといたします。

謹賀新年

令和四年 年頭のごあいさつ



つがる市議会議長
野呂 司

市民の皆さまの信頼と
負託に応え、研鑽を重ね、
より開かれた議会に

明けましておめでとうござい
ます。

市民の皆さまには、新春を
健やかにお迎えのこととお慶
び申し上げます。日ごろから
市議会に対し、ご理解ご協力
を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返ると、新型コ
ロナウイルスが一昨年に続き猛
威を振るい、感染が拡大する
など、経済活動も大きく減速
し、市民生活および地域経済
に多大な影響を及ぼしました。

また、九州、北陸、中国地
方など広い範囲に被害を与え
た「令和3年8月豪雨」、東日
本・西日本を襲った記録的な
猛暑、福島県沖地震など、各
地に甚大な被害をもたらしま
した。自然災害に対する備え
の大切さを再認識した年でも
ありました。

■縄文は世界文化遺産に

明るい話題として、本市の
亀ヶ岡石器時代遺跡と田小屋
野貝塚が「北海道・北東北の
縄文遺跡群」として世界文化
遺産に登録されました。これ
から、遺跡の持つ歴史や重み
を次の世代に継承するととも
に、訪れる方々に感動を与え、
活力と魅力あふれる地域づく
りにつなげていきたいと考えて
おります。

■農業の危機に直面し

本市の基幹産業である農業
においては、新型コロナウイルス
の感染拡大により外食需要
が大きく減少し、コメの需要
が減退したことにより、生産
者概算金が過去最大の下げ幅
となりました。

そのため、市議会としては、
いち早く「つがる市米価下落
対策特別委員会」を設置し、
稲作農家に対する支援策をま
とめ、市に要望書を提出した
ところです。これを受け、市
は農家の生産意欲を失わない
よう、早急に支援を実施しま
した。米価をはじめとする農
産物の価格については、しばら
くコロナ禍の影響が懸念される
ものの、一刻も早い回復が望
まれます。

■地域課題の克服に向けて

人口減少や少子高齢化な
ど、地方を取り巻く厳しい状
況のなか、多岐にわたる政治
行政課題の克服に向けて市議
会の責務はますます重要と
なっております。市議会として
も、市が昨年に策定した「第
2次つがる市総合計画後期基
本計画」を推進し、つがる市
が目指す姿「未来に希望を感
じる活力あるまち」「思いやり
とやさしさにあふれるまち」

「郷土に誇りと愛着を感じる
まち」の実現に向けて、一層、
市と連携を深めながら最善の
努力をしていく所存です。

■市議会改革を推進

市議会では、より市民の皆
さまへの情報提供に努めるため、
インターネットによる議会で継
を引き続き実施してまいりま
す。議会基本条例を随時検証
しながら、今後は、タブレット端
末導入による議案等のペーパ
レス化など議会運営の効率化
にも取り組んでまいります。

今後とも、議員一同、市民
の皆さまからの信頼と負託に
応えられるよう研鑽を重ねな
がら、より開かれた議会を目
指してまいります。

結びに、今年一年が市民の
皆さまにとりまして、健康で
明るく幸せな年となりますよ
う、心からお祈り申し上げます。
そして、新年のごあいさつとい
たします。

